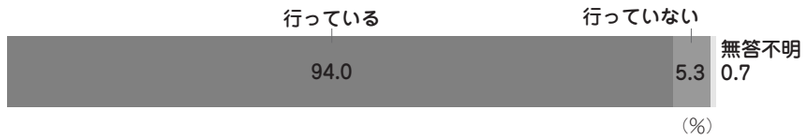
1. 実施率

ほとんどの公立小学校が、何らかの形で英語教育を行っている。１、２年生では８割、３～６年生では９割以上で実施されている。

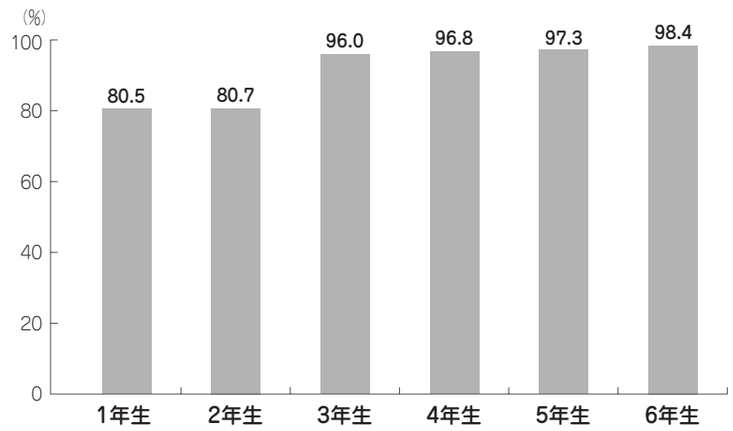
Q 貴校では、何らかの形で英語教育を行っていますか。

図1-1-1　英語教育の実施の有無



Q 英語教育を行っているのは何年生ですか。

図1-1-2　実施率（学学年別）



＊英語教育を「行っている」学校（3,292人）のみ対象。
＊「英語教育を行っているのは何年生ですか。また、教育課程上の位置づけは何にあたりますか。」という問いで、１つでも○がついていれば、その学年で英語教育を行っているとみなした。

今のところ小学校では、国語や算数のような教科としては位置づけられていない英語であるが、すでにいろいろな形での活動が行われていることは先行調査からもわかっている。では、実際にどのくらいの小学校が英語教育に取り組んでいるのだろうか。まずは、実施率をみてみよう。

何らかの形で英語教育を行っているかどうかをたずねたところ、「行っている」と回答した学校は94.0%であった**（図1-1-1）**。文部科学省の「小学校英語活動実施状況調査」（平成17年度）でも「『英語活動』を実施した学校」は93.6%とほぼ同じような結果となっており、すでにほとんどの学校で、何らかの形で英語教育が行われていることがわかる。

さらに**図1-1-2**では、英語教育の学年別の実施率をみた。３年生以上では、英語教育を行っている学校はほぼ100%に近い。１、２年生でも８割が英語教育を行っている。

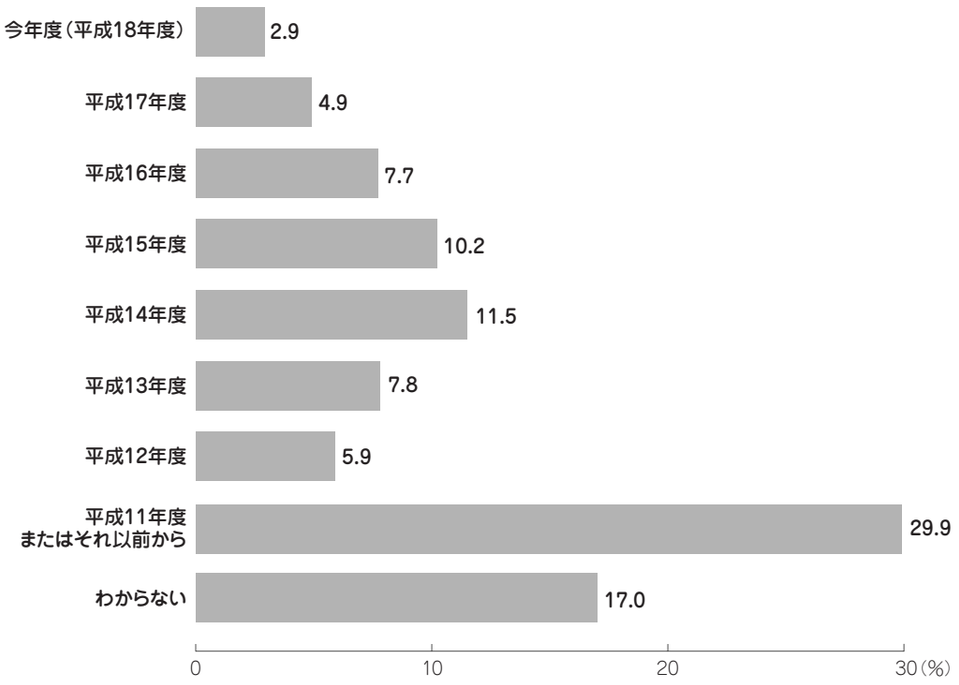
現在、小学校5、6年生での英語の必修化をめぐってさまざまな議論があるが、多くの小学校ではすでに低学年の段階から英語に関して何らかの取り組みを行っているのが現状のようである。

2. 開始時期

４割以上の学校が、現行の学習指導要領が施行された平成14年度よりも前から英語教育を行っている。

Q 貴校で英語教育を開始したのはいつですか。

図1-1-3　英語教育の開始時期



＊英語教育を「行っている」学校（3,292人）のみ対象。
＊「無答不明」は図から省略した。

前頁で、全国の公立小学校の９割以上が、何らかの形で英語教育を行っていることをみたが、それぞれの学校ではいつごろから英語教育に取り組んでいたのだろうか。英語教育の開始時期をたずねた結果が**図1-1-3**である。英語教育の開始時期は、「平成11年度またはそれ以前から」が29.9%ともっとも多い。「平成12年度」（5.9%）、「平成13年度」（7.8%）も含めると、４割以上の小学校で、平成13年度以前から英語教育に取り組んでいたことがわかる。

小学校英語に関する研究開発学校が初めて指定されたのは平成4年のことだが、本格的に全国の小学校が取り入れ始めたのは、平成14年度に現行の学習指導要領が施行されたときである。「総合的な学習の時間」が新設されたことによって、その中の国際理解の学習の一環として英語教育（活動）を取り入れる学校が増えたのである。学校によって、英語教育の内容はさまざまではあるが、すでに英語教育を開始してから５年以上の蓄積がある学校も少なくないことがわかる（詳しくは、P.106～107の資料編「小学校英語のこれまでの流れ」を参照）。

3.教育課程上の位置づけ

教育課程上の位置づけは、低学年では「教科もしくはそれに準じるもの」、中・高学年では「総合的な学習の時間」が多い。

Q 教育課程上の位置づけは何にあたりますか。

表1-1-1　教育課程上の位置づけ

（%）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
総合的な学習の時間			89.1	89.6	90.3	91.6
特別活動（クラブ活動や学校行事など）	14.3	14.4	2.2	5.1	5.3	5.3
教科もしくはそれに準じるもの	43.5	43.5	6.2	6.1	6.0	6.0
朝学習	2.8	2.8	2.7	2.6	2.6	2.7
その他（教育課程外の時間）	24.8	24.8	2.3	2.4	2.4	2.4

＊英語教育を「行っている」学校（3,292人）のみ対象。
＊複数回答。

＊参考　「小学校の各教科等の年間標準授業時数」

区分	各教科の授業時数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	総合的な学習の時間の授業時数	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				
第1学年	272		114		102	68	68		90	34	34		782
第2学年	280		155		105	70	70		90	35	35		840
第3学年	235	70	150	70		60	60		90	35	35	105	910
第4学年	235	85	150	90		60	60		90	35	35	105	945
第5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	110	945
第6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	110	945

＊出典 文部科学省「小学校学習指導要領」（平成10年12月告示）
＊この表の授業時数の1単位時間は45分。

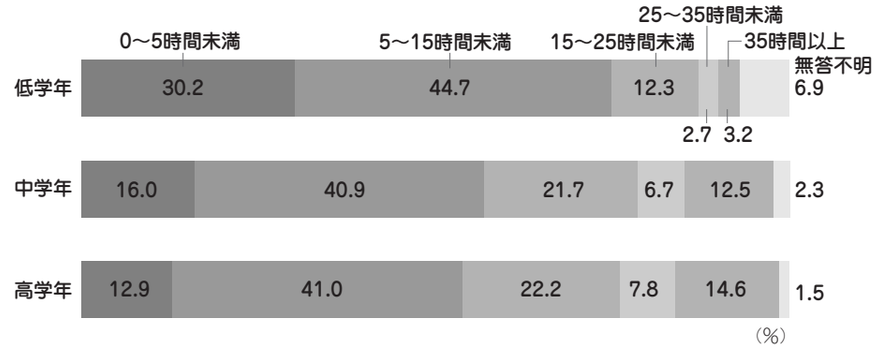
それぞれの学校では、どのような位置づけで英語教育を行っているのだろうか。教育課程上の位置づけをたずねた結果が、**表1-1-1**である。「総合的な学習の時間」がない低学年では、「教科もしくはそれに準じるもの」の時間を使って英語教育を行っている学校がもっとも多い。次に多いのは、「その他（教育課程外の時間）」であるが、これはおそらく学校裁量の時間などではないかと思われる。一方で、中学年・高学年では、英語教育はほとんどの学校で、「総合的な学習の時間」の中で行っているようである。「総合的な学習の時間」の中の、国際理解の学習の一環として行っているケースがほとんどだと考えられる。参考までに、学習指導要領で定められている、「小学校の各教科等の年間標準授業時数」を上に示した。

4.年間時数と英語教育の内容

年間時数は、15時間未満の学校が過半数を占める。
英語に慣れ親しむ活動を行っている学校が多い。高学年では文字を使った活動が増加し、3割以上が「英語の文字や文章を読む活動」を行っている。

Q 英語教育は年間どのくらい行っていますか。

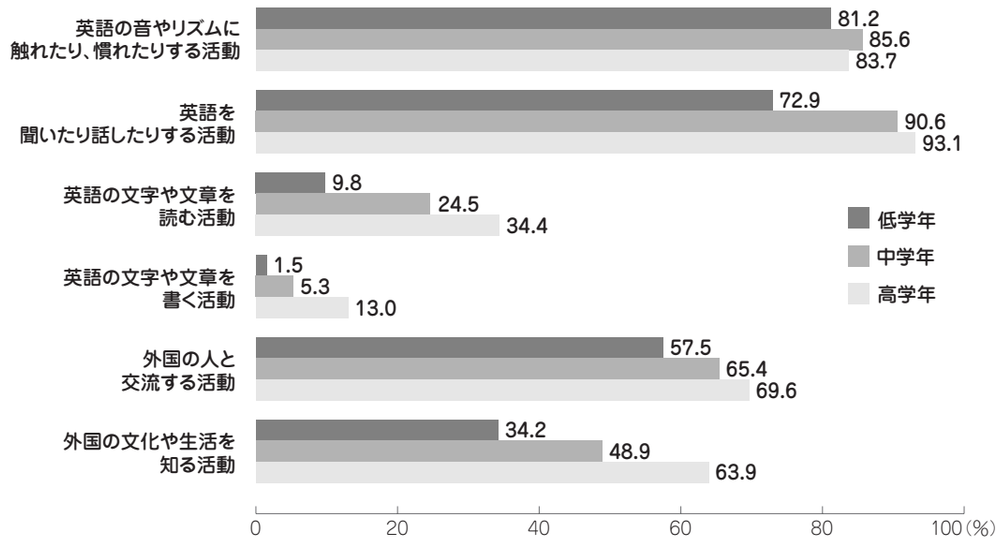
図1-1-4　年間時数（学年別）



＊英語教育を「行っている」学校（3,292人）のみ対象。

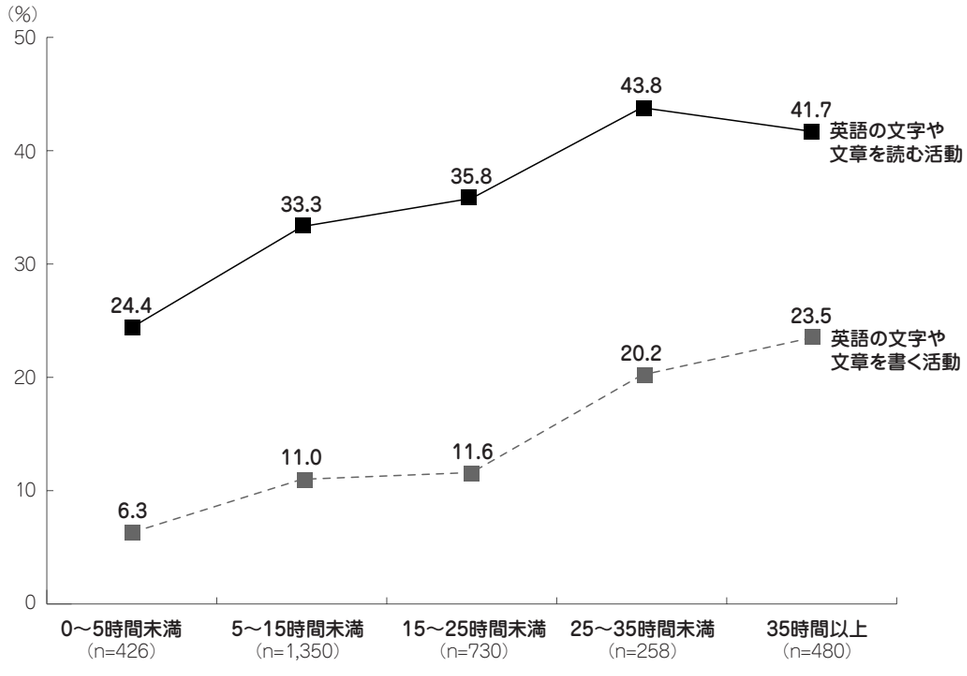
Q 貴校では、どのような英語教育を行っていますか。

図1-1-5　英語教育の内容（学年別）



＊低学年・中学年・高学年それぞれについて、行っている内容をすべて選択。
＊英語教育を「行っている」学校（3,292人）のみ対象。
＊複数回答。

図1-1-6　高学年の英語教育の内容（高学年の年間時数別）



英語教育の年間時数をたずねた結果が**図1-1-4**である。英語教育の年間時数を低・中・高学年それぞれについてたずねたところ、どの学年でも「5～15時間未満」という回答がもっとも多かった。ただし、学年が上がるにつれて時間数も増え、中・高学年では、「15～25時間未満」「25～35時間未満」「35時間以上」という回答も多くなる。

次に、どのような英語教育を行っているかをたずねた**（図1-1-5）**。低学年で中心となる内容は、「英語の音やリズムに触れたり、慣れたりする活動」が81.2%ともっとも多く、次いで「英語を聞いたり話したりする活動」が72.9%であった。中・高学年では、「英語を聞いたり話したりする活動」の方が9割以上と高くなるが、「英語の音やリズムに触れたり、慣れたりする活動」も低学年と同様に8割以上が行っている。また、「外国の人と交流する活動」はどの学年でも約6～7割が行っている。さらに、「外国の文化や生活を知る活動」は高学年では63.9%、中学年では48.9%、低学年では34.2%と学年によって違いがある。

また、学年が上がるにつれて、「英語の文字や文章を読む活動」「英語の文字や文章を書く活動」を行っている割合が多くなる。とくに、「英語の文字や文章を読む活動」は、すでに高学年の3割以上で行われているようだ。これをさらに、英語教育の年間時数別に見ると、「読む活動」「書く活動」ともに、年間時数が多くなるにつれて概ねその値も高くなっていることがわかる**（図1-1-6）**。